Hermann Gottschewski

東京大学　平成24年度冬学期　総合科目「比較文化論」 『ドイツ語文化圏と歌』

月曜2限　アドミニ棟学際交流ホール

第7回　平成24年12月3日

ドイツの民謡文化の歴史的な出版物

１）Ossian

http://ja.wikipedia.org/wiki/オシアン

当時ゲール神話として発表された英語のフィクション

（著者はJames Macpherson, 1736–1796）

1760初版

『オシアン』の最初のドイツ語訳は1768に出版される。特にヘルダーに多大な影響を与える。（彼はフィクションだ知らなかった）

２）Johann Gottfried (von) Herder (1744–1803)

*Volkslieder* (『民謡』)第一集、第二集（1778–1779）

1807年の再版„Stimmen der Völker in Liedern“ (『歌における民族の声』)でもっとも受容された諸民族の歌詞のコレクション。その内多くはヘルダー自身のドイツ語訳

„Volkslied“という概念がそれによって普及

３）*Des Knaben Wunderhorn* (『少年の魔法の角笛』)

Clemens Brentano (1778–1842) と Achim von Arnim (1781–1831)編、1805–1808出版

ドイツの民謡（歌詞）のコレクション。ただし文学の立場から大分手が加えられたと言われる。

ローマン派の文学とドイツの民謡運動に多大な影響を与えた。

４）Ludwig Erk (1807–1883)

ドイツの音楽教師・作曲家・男声合唱団創立者。民謡のメロディーのコレクターとしてもっとも有名。

ドイツ民謡のメロディーとその多様な伝承に注目したことで音楽的な民謡研究して重要な人物

1838年の*Die deutschen Volkslieder mit ihren Singweisen*以来多数な民謡集出版。1856年の*Deutscher Liederhort*は1893/94年にFranz Magnus Böhmeによって改定・訂正、それ以来ドイツ民謡研究のもっとも基礎的な研究材料の一つとされている。